予備教育における日本語学習者に求められる読解能力

―マレーシアマラヤ大学予備教育部の事例をもとに―

吉　川　　達

1．はじめに

マレーシア、クアラルンプールにあるマラヤ大学予備教育部日本留学特別コース（Ambang Asuhan Jepun 以下「AAJ」）では、マレーシア政府から日本の大学に派遣される国費留学生の予備教育を行っている。AAJでは、2009年度まで日本留学合否判定の一つの材料として日本留学試験（Examination for Japanese University Admission for International Students：以下「EJU」）が採用され、他の私費留学生と同様の試験で日本語能力が測られていた。

EJUは、TOEFL（Test of English as a Foreign Language）やIELTS（International English Language Testing System）などと同様、大学入学に関わる非常に大きな意味を持つテストである。そのようなテストを「利害関係の高いテスト（High-stake test）」と言うが、菅井（2003：4）は、「評価・テスティングが教育と切り離されて存在しない以上、教授法や教室活動の実態が色濃く評価・テストに反映するのが実情ではあるが、それとは逆の方向に評価・テスティングが教授法や教室活動に与える影響（impact又はwashbackと呼ばれる）も甚大」としている。実際、AAJにおいてもEJUの導入が決まりつつあった2005年ごろからカリキュラムが大幅にEJUに向けて改定されてきた。これは、EJUがもたらすwashbackである。

EJUは、AAJの学生に限らず日本の大学入学を目指す予備教育日本語学習にとって、その後の人生を左右しかねない大きな意味を持つ試験である。本稿ではEJUの中でも特にAAJの学生が苦手としている「読解」試験において、どのような技能が求められているのか試験問題、シラバス、試験結果、アンケートを材料として明らかにしたい。それが予備教育日本語学習者の一助になれば幸いである。なお、分析対象は2009年度まで実施されていた改定前のEJUのものであることをここで断っておく。

2．AAJについて

1982年、マハティール首相の東方政策（Look East Policy）の一環としてマラヤ大学（Universiti Malaya：UM）予備教育部（Pusat Asasi Sains：PASUM）にAAJが設置された。ブミプトラ（bumiputera）及びサバ、サラワク州の先住民族から学生を選抜し、それらの学生が日本の高等教育を受け、知識、技術をマレーシアに持ち帰って将来に国の発展に貢献することを目指している。AAJはその学生が日本の大学で講義を受けるに足る能力の養成を担う。

AAJは２年コースで毎年100名以上の学生が日本語、及び物理、数学、化学といった教科を学習する。日本語はもとより、教科の授業も文部科学省から派遣された現役の高校教員によっ

て日本語で行われるため、学生は教科に対応した日本語能力も求められる。日本語母語話者でさえ理解が難しいとされる科目を日本語学習者が日本語で理解することには大きな障壁がある。吉川（2007、2009）は、物理を取り上げその問題点を指摘しているが、本稿ではその基礎となる日本語科目について分析を進める。

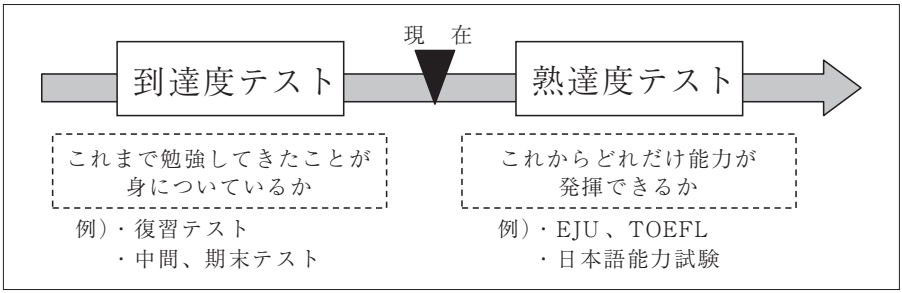
３．EJUについて

日本学生支援機構（Japan Student Services Organization：JASSO）が一年に２回、６月と11月に実施している試験で、「外国人留学生として、日本の大学（学部）等に入学を希望する者について、日本の大学等で必要とする日本語力及び基礎学力の評価を行うことを目的に実施する試験」（JASSOホームページより）である。試験科目は日本語、数学、総合科目、生物、化学、物理で、希望する大学・学部によって要求される科目は異なる。日本語科目はさらに「読解」「聴解」「聴読解」「作文」の分野に分かれ、400点満点で120分の試験時間である（2010年より改定）。2009年11月に実施された試験のデータによると国内外で２万３千人程度が受験し、平均点232.9点、最高点395点、最低点49点、標準偏差58.3となっている。最高点、最低点がそれぞれ100％、0％の数値ではないのは、この試験の得点が項目応答理論（Item Response Theory:IRT）を利用した尺度点だからである。

また、EJUは到達度テスト（achievement test）ではなく、熟達度テスト（proficiency test）である。到達度テストとは「個人が特定の学習期間内に一定のレベルに達したかどうかを試すテストで、既習事項が出題される」（石田1992：19）。一方熟達度テストは「将来何らかの目的のためにその言語を使用できる能力があることを測定」（菅井2006：189）するテストである。

つまり、到達度テストが過去の学習を測るのに対して、熟達度テストは将来の能力を測るものである（図１参照）。

図１．到達度テストと熟達度テスト



日本学生支援機構のホームページで公開されているEJUのシラバスにおいても、「１．試験の目的」として「この試験は，日本の高等教育機関（特に大学学部）に，外国人留学生として入学を希望する者が，大学等での勉学・生活において必要となる言語活動に，日本語を用いて参加していくための能力をどの程度身につけているか，測定することを目的とする」と述べている。この記述からも将来に備えた能力を測定することを目的としていることがわかる。

4．EJUの「読解」で求められる能力

EJUで求められる能力を検討する上でEJUのシラバスは重要な資料となる。日本学生支援機構のシラバスには、読解を含むEJUで求められる能力について以下のような記述がある。

資料１：EJUシラバス抜粋

①直接的理解能力：

言語として明確に表現されていることを，そのまま理解することができるかを問う。たとえば，次のようなことが問われる。

・個々の文・発話内で表現されている内容を，正確に理解することができるか

・文章・談話全体の主題・主旨を，的確にとらえることができるか

②関係理解能力：

文章や談話で表現されている情報の関係を理解することができるかを問う。たとえば，次のようなことが問われる。

・文章・談話に含まれる情報のなかで，重要な部分，そうでない部分を見分けることができるか

・文章・談話に含まれる情報がどういう関係にあるかを理解することができるか

・異なる形式・媒体（音声，文字，図表など）で表現されている情報を比較・対照することができるか

③情報活用能力：

理解した情報を活用して論理的に妥当な解釈が導けるかを問う。たとえば，次のようなことが問われる。

・文章・談話の内容を踏まえ，その結果や帰結などを導き出すことができるか

・文章・談話で提示された具体的事例を一般化することができるか

・文章・談話で提示された一般論を具体的事例に当てはめることができるか

・異なる形式・媒体（音声，文字，図表など）で表現された情報同士を相補的に組み合わせて妥当な解釈が導けるか

上記能力が具体的にどのように測られているのかを検討するため、次ページ資料２に2008年第２回試験から一例を取り上げる。

次の問題の質問文から「携帯電話を処分しない最も大きな理由」を探しながら本文を読む必要があることがわかる。その視点からみると、第１、２段落はそれに関係がない部分なので読み飛ばすことができる。これはシラバスの「２関係理解能力」の「重要な部分、そうでない部分を見分けることができる」に当たるであろう。そして第３段落の始めに「端末を手元に置いておく理由としては」とあるので、この辺りから注目し、「『コレクション･思い出として残す』が35％と最も多く」とあるので、これを正答として選ぶ。これ以降は読む必要はない。ところが、本文の下に示されている選択肢の中には「コレクション・思い出として残す」という選択肢はない。これを「３．記念としてとっておくため」という表現に言い換えなければならない

のである。これはシラバスの「③情報活用能力」ということになるであろう。もちろん文章を読み進めるにあたり、「①直接理解能力」が必要とされるのは言うまでもない。

資料２．EJU読解の問題例

問５

次の文章は携帯電話のリサイクルについて述べたものです。携帯電話を処分しない最も大きな理由はどれですか。

社団法人電気通信事業者協会（TCA）と情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）は６月26日、2006年度の携帯電話・PHSにおけるリサイクルの取り組み状況についてまとめ、公表した。

…（略）…

また、リサイクルに関する実態を調べるため、携帯電話・PHS利用者2000人に対して実施したアンケート調査の結果についても発表した。これによると、過去１年間に買い替え・解約などで端末を処分した人の割合は32.8％で、2005年度より1.6％減少していることが分かった。

端末を手元に置いておく理由（複数回答）としては、前年度の調査とほぼ同様な傾向で、写真やメールが残る端末を「コレクション・思い出として残す」が35％と最も多く、端末の多機能化･高性能化で「電話帳として利用」（14％）、「データのバックアップ用」（12％）、「デジカメ」（５％）、「目覚まし時計」16％などの用途で利用している人も多いことが分かった。

また、個人情報保護への意識の高まりを反映して「個人情報が漏れるのが心配」とする回答も13％と昨年同様多く見られた。一方で、「何となく」という回答も22％あり、必ずしも積極的な理由ばかりでない実態もうかがえる。

（目黒譲二「携帯電話リサイクルの回収台数、減少傾向続く」URL発表者省略）

１．個人情報を守るため
２．ゲームをするため
３．記念としてとっておくため
４．カメラとして使うため

（『平成20年日本留学試験（第２回）試験問題』より）

EJUの読解では、問題を解く時間も大きな問題である。試験では30分で20問という問題数が課せられているため、受験者は平均1.5分で１問を解かなければ、全ての問題に解答することができない。つまり、スピードも要求されているのである。最初から最後まで詳細に意味をとらえながら読むという「スキミング（skimming）」をしていたのでは､時間は足りない。スピードを上げるためには、飛ばし読みをしたり、重要と思われる個所とそうでない箇所を区別して読んだりするという「スキャニング（scanning）」のスキルも必要になる。場合によっては、選択肢から先に読んで本文を読み始めるという受験対策のようなスキルも必要になるかもしれ

ない。先に示した資料１の「②関係理解能力」の中に「文章・談話に含まれる情報のなかで，重要な部分，そうでない部分を見分けることができるか」という記述があり、解釈によってはこれがスピードを上げて読む、つまりスキャニングのスキルにつながると言えるかもしれないが、速さに関するそれ以外のスキルは特に明文化されていない。

ところで、試験を行う上で重要となるのが真正性(authenticity)の問題である。McNamara（2000：131）は真正性を「テストの素材がどれだけ現実を再現しているか」としている。EJUの読解は本文のテクストに生の材料を用いている点では、真正性が高いと言える。しかし、質問についてはどうであろうか。門倉（2005：34）は、「『次の文章の内容と合っているものはどれですか。』という質問に答えて、４つの解答選択肢から正解を選ぶという解答プロセスは、われわれが普段、文章を読む過程では、およそ起こりえないことが問われている」としている。同様に菅井（2003）は読解の行為に対して「読むこと（見ることではなく）は、意識的に行う行動で、多くの場合目的を持たないと読むという行動自体が起きない」と述べ、さらに「結局、読解テストにおける目的というのは、ある読解行動を起こさせようとする指示文の操作で決まる」としている。つまり、読むという行為は娯楽として小説を読むことから新聞のテレビ欄で必要な情報を探すことまで広範囲に渡るが、問題本文において読むジャンルを特定し、質問において読解の範囲を狭め、焦点化し、固定化している。

そのように考えると、EJUの読解の本文テクスト自体は真正性が高いが、質問まで含めた場合、真正性が低下すると言える。

では、EJUの読解を「本文テクストの真正性は高いが、設問や解答時間を含めると現実の読みから離れたものになる」とした場合、各教育機関で行われているような到達度テストや練習問題との違いはどこにあるのだろうか。

通常、教育機関で到達度テストを作る場合、材料となるテクストをその時の学習者のレベルに合った形に書き換え（リライト：re-write)、重要と思われる個所に設問をつけるという手順を踏むことが多い。ここで注目すべきは、テクストを「学習者のレベルに合った形に書き換える」ことである。「学習者のレベル」とは、もちろん文章の構成が複雑にならぬようにするという談話的配慮もあるが、主に文法や語彙レベルを指す。この書き換えを行う時点でテクストの真正性は失われることになる。つまり母語話者向けの文章から日本語学習者向けの文章に変わるということである。だからといって学習途中にある学習者に生の教材を与えることは現実的ではない。

では、到達度テストのような書き換えが行われたテクストを使用した試験とEJUの間には測っているものに差があるのだろうか。

それを検討するために、AAJの学生の定期試験の成績とEJUの結果を対照させた。AAJの定期試験の結果として使用したのは、EJUに近い時期に行われた試験２回分である。具体的には、EJUが11月にあり、定期試験は8月末に期末試験が、6月末に中間試験が実施された。さらにそれぞれについて２か年分のデータを参照した。

表１．EJU読解と定期試験読解の成績相関

	中間試験	期末試験
2008年度	0.477	0.429
2009年度	0.471	0.458

いずれにおいても0.4以上の相関が見られる。定期試験の得点は正答数によって算出されている。これは古典的テスト理論（classical test theory）である。一方EJUは項目応答理論が用いられている。このような得点化の過程が異なることを考慮した場合、0.4以上の相関は無視できないものであろう。つまり、テクストの真正性に差があるとしても、到達度テストが測っているものと熟達度テストが測っているものが必ずしも違うものではないと言えるではなかろうか。そもそも読解における到達度テストというものが存在するのかという疑問はあるが、それについては機を改める。

さらに参考に定期試験の読解の成績と文法、語彙の成績を対照させてみた。

表２．期末試験における読解との相関

	文字語彙	文法
2008年度	0.516	0.538
2009年度	0.390	0.594

2009年度の文字語彙を除き0.5以上の相関が見られた。文法や語彙の積み上げは読解能力と無関係ではないことが示唆される。菅井（2003）も文法や語彙能力が読解能力に影響を及ぼす例を紹介している。

５．アンケート結果による学生の印象

2008年11月のEJU第２回終了後、受験を終えた学生（146名中96名）にEJUの読解についてアンケートを行った。アンケートで質問した項目は以下の３点である（別添資料参照）。

①EJUの読解は得意ですか。（「１得意」から「５苦手」の５段階評価）

②EJUの読解のどんな点が難しいと感じましたか。（自由記述を含む10項目から複数回答）

③もしEJUの読解がマレー語だったら満点が取れると思いますか。（Yes/No）

質問①の結果は、平均3.46標準偏差0.85であった。１の「得意」を選んだ学生はいなかった。平均3.46ということは中間の「３どちらともいえない」よりも少し苦手寄りだということである。

質問②に関しては、結果の一覧を以下に示す。

表３．質問②の結果（N＝96）

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	時間が短い	本文言葉難	本文文法難	本文内容難	本文が長い	選択肢難	答えが選べない	わからない漢字多	集中力切れ	その他
選択者数	81	58	24	49	39	36	56	65	59	3
%	84.4	60.4	25.0	51.0	40.6	37.5	58.3	67.7	61.5	

選択者が最も多かったのが「１問題を解く時間が短い」で、84.4％の学生が選択している。先にも述べた通り、EJUの読解ではかなりのスピードを要求されるがそれが負担になっている学生が多いことがわかる。文章の内容を正確にとらえられることはもちろんであるが、それだけではなく、速読のスキルもアカデミック・ジャパニーズでは要求されている。はたして速く読むことも大学入学後に必要なスキルなのであろうか。

次に多かったのが、65名（67.7％）が選択した「８わからない漢字が多い」である。この結果はまさにマレーシアの学生にとっての壁を表している。AAJの学生は全員が非漢字圏の学習者である。漢字圏の学習者であれば、漢字が多いことは理解に有利に働くことが多い。しかし、非漢字圏にとっては、それが障壁となる。先に語彙力と読解力についての相関を述べたが、非漢字圏の学習者にとっては語彙の数を増やすとともに、漢字語彙から意味を推測するというような能力の育成も必要なのである。この点は漢字圏の学習者と比べた場合、大きなディスアドバンテージとなる。この点について、先の問５を再度例にとって考えてみる。

資料３．EJU問題例の学習者にとって難しい漢字・語彙

社団法人電気通信事業者協会（TCA）と情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）は６月26日、2006年度の携帯電話・PHSにおけるリサイクルの取り組み状況についてまとめ、公表した。

…（略）…

また、リサイクルに関する実態を調べるため、携帯電話・PHS利用者2000人に対して実施したアンケート調査の結果についても発表した。これによると、過去１年間に買い替え・解約などで端末を処分した人の割合は32.8％で、2005年度より1.6％減少していることが分かった。

端末を手元に置いておく理由（複数回答）としては、前年度の調査とほぼ同様な傾向で、写真やメールが残る端末を「コレクション・思い出として残す」が35％と最も多く、端末の多機能化･高性能化で「電話帳として利用」（14％）、「データのバックアップ用」（12％）、「デジカメ」（５％）、「目覚まし時計」16％などの用途で利用している人も多いことが分かった。

また、個人情報保護への意識の高まりを反映して「個人情報が漏れるのが心配」とする回答も13％と昨年同様多く見られた。一方で、「何となく」という回答も22％あり、必ずしも積極的な理由ばかりでない実態もうかがえる。

下線：日本語能力試験１級及び級外語彙
塗潰し：日本語能力試験１級漢字
（漢字・語彙分析ツール「リーディングチュウ太」による分析結果）

仮に学習者の能力が日本語能力試験２級程度で、全く未習語彙の推測ができなかったとした場合、資料３で印を付けた語は全て意味がわからないことになる。先に第３段落の最初の文が問題を解く上で重要であると述べたが、「端末を手元に置いておく理由としては」の「端末」も「手元」も意味がわからなければ、せっかくのヒントを見逃すことになる。「端末」を「携帯電話」と結びつけることは、知っていなければできないことであり、ある種の日本事情の要素が含まれている。「手元」は、「手」も「元」も単漢字としては３級程度の漢字であり、難しいものではない。しかし、それらが組み合わさって「手元」となると語彙のレベルは上がり、それが「自分のすぐそば」を意味することがわかるかどうかは学習者自身の推測力に依る。

到達度テストの場合、多くはリライトをするため真正性が落ちると述べた。本文の真正性が落ちることの弊害の一つはここに表れる。真正性の高い文章、つまり生の文章では当然のことながら筆者は読者の日本語力に配慮することなく文章を書いている。また、EJUで素材とされるような論説文や説明文は、専門的になればなるほど漢字語彙が増える傾向にある（玉村1982：286）。それを教師がリライトし、平易な表現に変えることによって文章は理解しやすくなるかもしれないが、それと同時に難解な漢字語彙に触れる機会を減らしているのである。学習者のレベルとのバランスを考える必要はあるが、真正性が失われる弊害も教師は十分に理解しておくべきである。

再び表３に戻ると、次に選択者の多い項目は「９最後まで集中力が続かない」であり、日本語能力の以外の問題も大きくかかわっていることがうかがえる。さらに「２本文の言葉が難しい」「７本文はだいたい理解できるが、どの答えが正しいかわからない」と続くが、ここで「その他」の記述について見てみたい。

「10その他」で記述したのは３名いる。記述内容を以下に示す。

学習者Ａ「昔から読解が苦手」
学習者Ｂ「多いからわからない」
学習者Ｃ「日本事情の知識不足」

このうち学習者Ｃの記述には注意が必要である。先の問５の「端末」が文脈上「携帯電話」のことを意味するというようなことは、日本に住んでいれば知り得たかもしれない。海外にいて、肌で日本事情を学習できない学習者にとっては、学習者Ｃの述べるような日本事情の知識不足は切実な問題となる。

もっとも、EJUのような国外でも実施している利害関係の大きいテストでは、国内に住んでいる者が有利になるような話題は避けるよう、問題作成時には十分に注意すべきである。

６．まとめと今後の課題

本稿ではまず、EJUのシラバスから名目上必要とされている能力を紹介し、実際の問題と照らし合せて分析した。次に真正性の問題を取り上げ、到達度テストと熟達度テストの関連を調べた。それらを総合し、シラバスに明文化されていなかったスキル、及び土台となる文法、語彙知識の重要性について言及した。最後に学生のアンケートから見えてくる特徴を述べた。

以上の分析で明らかになったことを以下に列挙する。

予備教育学習者に求められる読解能力

①真正性の高い説明文や論説文を読む能力

②EJUシラバスを基にした、文章を特定の目的で読むスキル

③EJUシラバスに明文化されていない速読のようなタスク遂行能力

④①を達成するためにその土台となる語彙力、文法力。特に非漢字圏の学習者は漢字語彙の推測力も含む。

⑤広い範囲の社会的知識や日本事情があれば有利である

今後はEJU読解のさまざまな問題を検討し、必要とされている能力をより詳細に記述したい。また2010年６月の試験よりEJUは大幅に改定された。改定後の読解試験も今後検討していきたい。

さらに学生アンケートで最後に「もしEJUの読解がマレー語だったら満点が取れると思いますか」と質問した。その結果、「取れると思う」と回答した学生が57名（59％）で「取れないと思う」と回答した学生が39名（41％）であった。母語でほとんど本を読む習慣がなかった学習者が、日本語を勉強し始めて日本語の読解の訓練をし、日本語の文章が読めるようになるとは考えにくい。読解は他の技能に比べ、母語での能力と通底している部分が多いように感じる。今後は、例えばEJUの読解問題を学習者の母語に翻訳し受験させたり、日本語母語話者に受験させたりして、母語の影響の問題も分析していきたい。

＜参考文献＞

・菅井英明（2003）「言語教育における評価の動向と概要」『日本語教育における評価法に関する基礎的資料整備とその分析』平成13年度（2001）～平成14年度（2002）文部科学省科学研究費補助金基盤（C）（2）研究報告書

・吉川達（2007）「物理の授業で用いられる日本語の語彙調査―マラヤ大学予備教育部での事例―」『山口国文』第30号　山口大学

・吉川達（2009）「物理力学分野の問題分に現れる動詞の調査」『山口国文』第32号　山口大学

・日本学生支援機構ホームページ（http://www.jasso.go.jp/eju/whats_eju.html）

・石田敏子（1992）『入門日本語テスト法』大修館書店

・菅井英明（2006）「熟達度テストの観点から見た大規模標準日本語テスト―McNamaraの熟達度テストの定義から見て―」『世界の言語テスト』国立国語研究所編　くろしお出版

・日本学生支援機構「日本語シラバス」（http://www.jasso.go.jp/eju/documents/jfl.pdf）

・日本学生支援機構（2009）『平成20年日本留学試験（第２回）試験問題』桐原書店

・Tim McNamara（2000）*Language Testing:* OXFORD UNIVERSITY PRESS

・門倉正美（2005）「読解＝大意把握でよいか？－日本留学試験読解問題の分析・評価と新形式問題の提起－」『日本留学試験とアカデミック・ジャパニーズ（２）日本留学試験が日本語教育に及ぼす影響に関する調査・研究―国内外の大学入学前日本語予備教育と大学日本語

教育の連携のもとに―』平成14年度～16年度科学研究補助基盤研究費（A）(1)研究成果報告書
・川村よし子・北村達也「リーディングチュウ太」
（http://language.tiu.ac.jp/result/jtool/B61AAE8A.html）
・玉村文郎（1982）「語種」日本語教育学会編『日本語教育事典』大修館書店

（よしかわ・とおる）

別添資料．ＥＪＵの読解に関するアンケート

ＥＪＵの読解についてのアンケート

私はＡＡＪの吉川と申します。来年度の授業に先立って、今ＥＪＵの読解について調べています。みなさんの意見を参考にしたいので、下の質問に答えてください。

ＡＡＪ番号＿＿＿＿＿　クラス＿＿＿＿＿＿＿＿＿　名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ＥＪＵの読解（速読）について、あてはまるものに○をつけてください。

① ＥＪＵの読解は得意ですか。

1	2	3	4	5
得意	少し得意	どちらともいえない	少し苦手	苦手

② ＥＪＵの読解のどんな点が難しいと感じましたか。あてはまるものを全て選んでください。

1　問題を解く時間が短い　　2　本文の言葉が難しい　　3　本文の文法が難しい
4　本文の内容が理解しにくい　　5　本文が長い　　6　選択肢（せんたくし）が理解しにくい
7　本文はだいたい理解できるが、どの答えが正しいかわからない
8　わからない漢字が多い　　9　最後まで集中力が続かない
10　その他（　　）

③ もしＥＪＵの読解がマレー語だったら満点が取れると思いますか。

1　とれると思う　　2　とれないと思う

ご協力ありがとうございました。